

1 環境教育・学習アクションプログラム

▶ 詳しくはこちら



(1) 目的及び方針

ア 目的

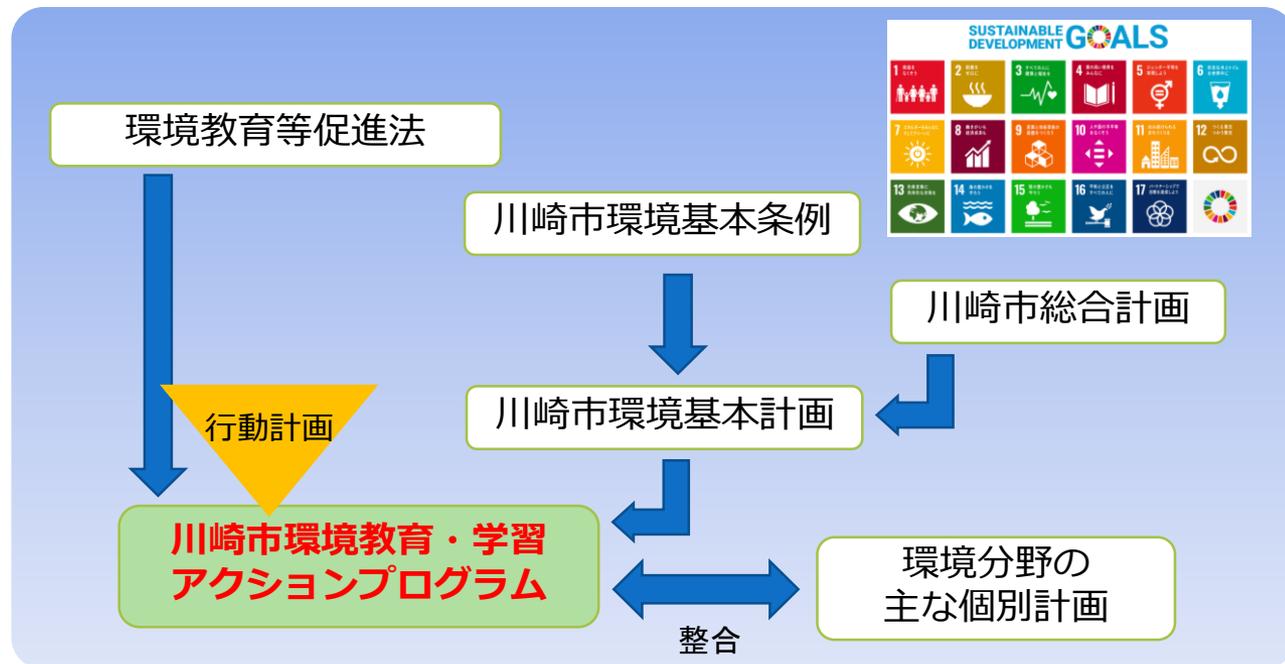
環境基本計画において、めざすべき環境像として掲げる「豊かな未来を創造する地球環境都市かわさきへ」の実現に向けて、**環境教育・学習により貢献する。**

イ 方針

豊かな未来へつなぐ心の輪 ～'知っている'から'できる'へ～

(2) 期間

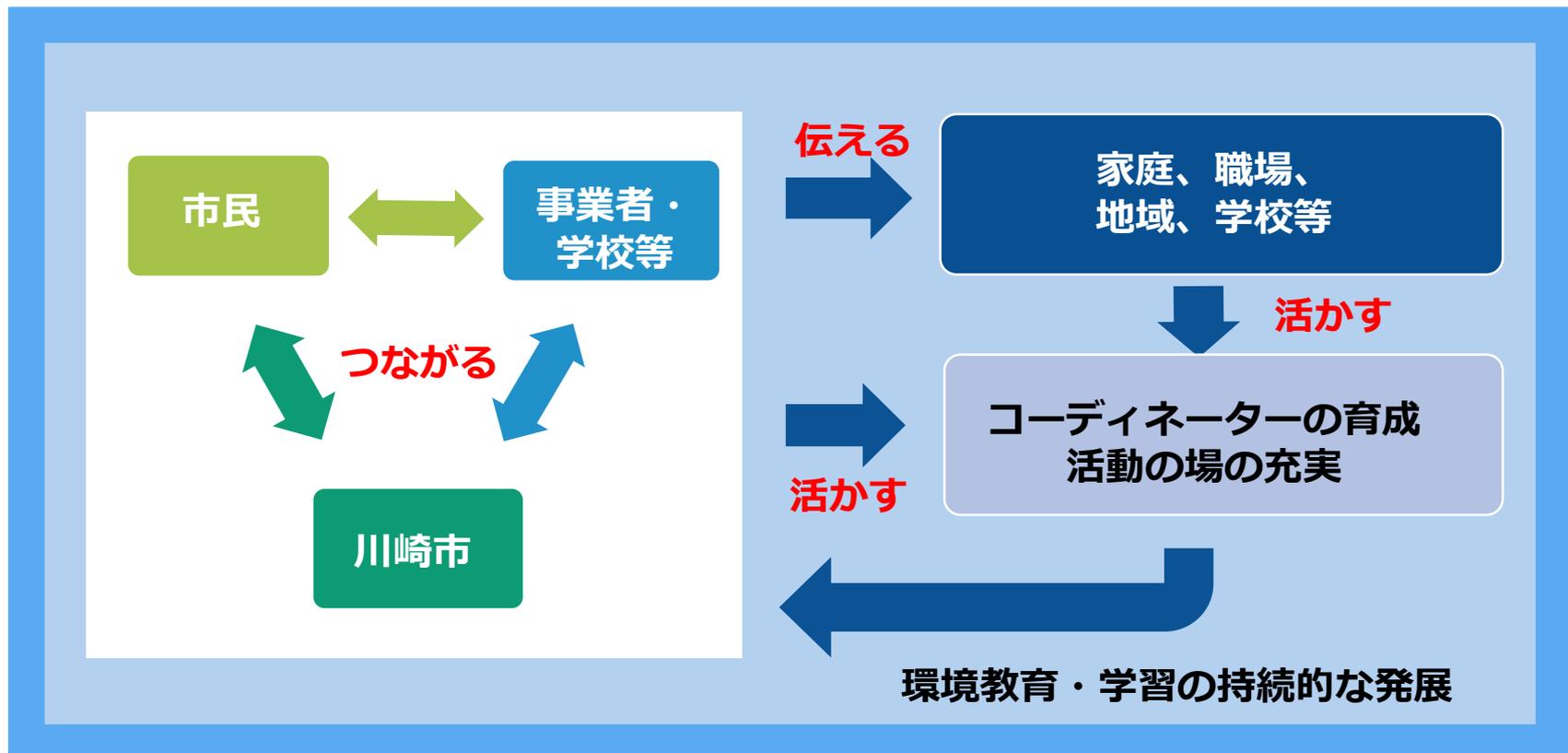
令和3（2021）年度
から概ね5年間



(3) アクションプログラムの体系

本プログラムでは、協働取組の視点、環境への配慮意識の一層の向上の視点及び育成した人材の活用による環境教育・学習の充実の視点として、「つながる」、「伝える」、「活かす」という3つの基本的な体系に整理しています。

- | | | |
|-----|------|-----------------|
| I | つながる | ～協働取組の推進～ |
| II | 伝える | ～環境教育・学習を地域で実践～ |
| III | 活かす | ～人材育成とその活用～ |



(4) 基本的施策

「つながる」、「伝える」、「活かす」という3つの基本的な体系に基づいて、分野横断的に取組を推進します。

基本的施策	
I	協働取組の推進「つながる」
1	川崎の地域資源を活用したつながりづくり
2	環境教育・学習に関する協働への支援
II	環境教育・学習を地域で実践「伝える」
1	関心を引きつけて参加を促す取組
2	成長過程に応じた取組
3	自発的な取組への支援
4	効果的な情報発信
III	人材育成とその活用「活かす」
1	環境保全活動の核となる人材の育成とその活用
2	環境教育・学習に係る拠点・施設の充実
3	行動変容につなげるための新たな取組

(5) 取組状況の把握・点検

市が実施した事業に関する数値的な指標「活動指標」と、事業の結果が行動変容につながったと推察できる行動に関する指標「分野別指標」により、取組状況の把握、点検を行います。

ア 活動指標

施策の「つながる」、「伝える」、「活かす」ごとに、**事業実施件数及びイベント・講座等実施回数**を活動指標としています。

イ 活動指標の状況

令和5（2023）年度の環境教育・学習に係る事業実施件数及びイベント・講座等実施回数は、「つながる」が55件、1,120回、「伝える」が58件、462回、「活かす」が11件、131回でした。令和5（2023）年度は**令和4（2022）年度よりも事業実施件数及びイベント・講座等実施回数ともに概ね増加傾向**にあり、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった**令和元（2019）年度（プログラム策定時）と比較しても、一部を除き同程度の水準まで回復**しています。

	項目	2019年度(R1) (プログラム策定時)	2022年度 (R4)結果	2023年度 (R5)結果	方向性
つながる	事業実施件数	59件	52件	55件	多い方がよい
	イベント・講座等実施回数	1,007回	1,032回	1,120回	
伝える	事業実施件数	61件	51件	58件	多い方がよい
	イベント・講座等実施回数	385回	365回	462回	
活かす	事業実施件数	7件	10件	11件	多い方がよい
	イベント・講座等実施回数	284回	215回	131回	

(5) 取組状況の把握・点検

ウ 分野別指標

環境全般の他、脱炭素化、自然共生、大気や水などの環境保全、資源循環の各分野ごとに、事業の結果が行動変容につながったと推察できる行動に関する指標として、「分野別指標」を設定しています。

エ 分野別指標の状況

分野別指標として設定している20項目のうち、令和5（2023）年度は令和4年度（2022）年度と比較して11項目が目指す方向性の推移となりました。また、プログラム策定時と比較すると15項目が目指す方向に進んでいます。

分野	項目	2019年度(R1) (プログラム策定時)	2022年度 (R4)結果	2023年度 (R5)結果	方向性
環境全般	環境に配慮した生活を行っている人の割合	49.9%	58.5%	48.2%	高い方がよい
	環境学習施設利用校の割合	59.6%	51.8%	85.1%	高い方がよい
	出前講座利用校の割合	27.2%	32.5%	28.1%	高い方がよい
	環境関連NPO登録数	42件	48件	45件	多い方がよい
脱炭素化	世帯当たり二酸化炭素排出量	2.5トン (2018年度暫定値)	2.37トン (2020年度暫定値)	2.16トン (2021年度暫定値)	少ない方がよい
	再生可能エネルギー導入量	約200,000kW (2019年度実績)	約212,000kW (2021年度実績)	約217,000kW (2022年度実績)	多い方がよい
	地球温暖化防止活動推進員数	80人	87人	75人	多い方がよい
	クールチョイス登録数	26,591件	27,381件	— ※	多い方がよい

※国が進めてきた国民運動「クールチョイス」が「デコ活」に移行し、新規登録受付を終了したため（－）となっています。228

(5) 取組状況の把握・点検

エ 分野別指標の状況

分野	項目	2019年度(R1) (プログラム策定時)	2022年度 (R4)結果	2023年度 (R5)結果	方向性
自然共生	公園や緑の豊かさ満足度	69.1%	70.9%	70.7%	高い方がよい
	緑のボランティア活動箇所数	2,337箇所	2,284箇所	2,271箇所	多い方がよい
	市民植樹による累計植樹本数	約103万8千本	約125万本	約136万本	多い方がよい
	生き物マップ報告件数	3,136件	2,173件	13,017件	多い方がよい
大気や水 などの 環境保全	空気や川、海のきれいさ満足度	53.9%	55.9%	55.7%	高い方がよい
	次世代自動車普及率	13.5% (2018年度実績)	16.4% (2021年度実績)	17.5% (2022年度実績)	高い方がよい
	かわさきエコドライブ宣言 宣言者数	8,519人	8,534人	8,539人	多い方がよい
	市民1人1日当たりの 生活用水使用量	235L	241L	238L	少ない方がよい
資源循環	1人1日当たりのごみ排出量	905g	858g	820g	少ない方がよい
	食品ロス削減協力店	250店舗	507店舗	686店舗	多い方がよい
	生ごみ処理機等購入費助成 件数	205件	436件	298件	多い方がよい
	ごみ分別アプリダウンロード数	約13万6千件	約20万9千件	約23万6千件	多い方がよい